

札幌市立米里中学校の取組【雪に関する教育課程】

1. 研究のねらい

生徒会ボランティア活動に端を発し、地域連携により着実に継承されてきた既存の生徒会活動と、「積雪資源活用ビオトープづくり」を目指す昨年度からの実践研究の継続である。本校にとって雪に関わるこれらの活動は、異学年交流、学年・学級・部活動の所属を越えた生徒同士の仲間づくりの場面として定着した。また、生徒と学校職員との共働作業や地域の方々との交流を含めた直接的な体験活動は徐々に広く知られ、学校・地域社会への帰属感情や自己有用感が醸成される活動の機会となっている。

これらを基盤に、さらに多くの生徒が雪に親しめるよう活動を推進し、発展をねらう。

2. 取組内容

(1) これまでの取組の継承

① 生徒会雪遊びボランティア活動

札幌市立きくすいもとまち幼稚園にて毎年開催される「雪遊び・中学生と遊ぼう」(未就学児の子育て広場「ポロップひろば」と白石区の子育てサロン「わくわくぽけっと」が生徒会と連携して共催)には多くの生徒が応募する。その中から 20 名以上の生徒が、汗ふきタオル・水筒・スキーウェア・帽子・手袋で身支度を調べて参加し、地域の幼児と一緒に雪遊びを行った。その後は園内で先生達と協力して紙人形劇を披露した。



② 生徒会地域消火栓雪かきボランティア活動

生徒会執行部が主体となり、全校にボランティアを呼びかけ、消防署や地域の消防団と連携して生徒が消火栓周辺の公道の除雪を行う。3 学期に 4～5 回実施し、のべ 200 名以上の生徒が参加する。活動を終えた後は学校に集まり、汗を拭き、温かい飲み物で暖まってから帰宅する。



(2) 「積雪資源ビオトープ」の実現を目指した取組

① 企業の社会貢献事業との連携

地域企業の御厚意により、校地内の排雪を 7 年間にわたり無償で行っていただいている。大型重機で年間数回にわたり積み上げられ、大きな雪山ができる。生徒は雪山をスコップで崩し、大型そりに乗せて「積雪資源ビオトープ」まで運ぶ。

② 体育文化振興会グラウンド排雪活動

全校生徒に呼びかけ、降り積もったグラウンドの雪を「積雪資源ビオトープ」に運ぶ雪かき活動である。運動系部活動の冬期間のトレーニングとなり、文化系部活動や部活動に入っていない生徒の運動の機会であり、結果的に春のグラウンドを早く使えることにもなる。3 学期に 4～5 回実施し、のべ 250 名以上の生徒が参加する。地域企業の社会貢献事業と併せ、グラウンドから運ばれて積み上げられてできる大きな雪山

からは、ビオトープの水位を維持する融雪水がもたらされる。春に水鳥が訪れ、地域特有の希少魚種であるイバラトミヨを含めた水生生物生息の定着持続性が高まる。

3. 成果と課題

(1) 成果

① 生徒会ボランティア活動

「雪遊び」では地域の園児のみならず、中学生も満面の笑顔で遊ぶ。保護者の方々に感謝され、同時に町内会、健全育成推進会の方々・先生達との交流が自然に生まれた。

「地域消火栓雪かき」は消防署や地域の消防団の方々の御指導により、日常的には意識しない消火栓の存在と役割について、改めて認識する機会でもあり、生徒の危機管理や防災への意識、また社会性や公共心の醸成に大きく寄与する貴重な直接体験であった。この活動は昨年度から白石区土木課雪対策室より、公道除雪用のスコップ等の雪かき物品を無償貸与していただいております、全ての参加生徒が道具を使用できることでさらに前進した。

② 「積雪資源ビオトープ」づくり

昨年度より始めた雪かきは「雪かき汗かきチャレンジ」「プロスポネット賞」受賞が励みとなり、運動系部活動生徒のみならず、さらに多くの生徒が主体的に参加している。この活動に対する生徒のニーズは依然として高い。地域企業の協力のもと【雪】に親しみながら教員・事務官・用務員と同じ汗をかいて【運動】し、希少水生生物の生息【環境】をつくる。ビオトープは今年度も積雪前に3学年（約140名）が面積をさらに拡張し、理科の授業（環境分野・水質調査）に役立てた。地域・環境・運動・奉仕・部活動・教科・特別活動等が有機的に連動して活性する潜在的カリキュラムとして定着した。



これら取組に関して昨年度末には札幌市建設局雪対策室より「第10回雪と暮らすおはなし発表会」（サッポロファクトリーアトリウム）にお招きをいただいた。科学部が本校を代表して発表し、中学生と地域の方々の双方が改めて「地域と学校」を実感する貴重な機会となった。

(2) 課題

昨年度、雪を堆積させるだけではビオトープが干上がってしまう時期が初夏にあった。各方面の御助言と支援を受け、雪解けの速度を大きく遅らせるシートと堆積場所の囲いを用意できた。生徒は積雪前からこれらを活用した水位保持の仕組みを整えるための有効な手だてを模索し、創意工夫している。継続的な観察や調査から成果を具体的に確認して生徒たちが共有し、雪に関する活動のさらなる価値付けとなり、取組に深みと幅をもたせることができる。これら学校における子どもの体験は家庭・地域とも共有し、小学校との連携により「札幌雪学習」との系統性を高め、生涯にわたって雪に親しめる基礎づくりを目指したい。

